

**IBM Integration Designer**



# **Integration Designer インストール・ガイド**

*バージョン 7.5.0*



**IBM Integration Designer**



# **Integration Designer インストール・ガイド**

*バージョン 7.5.0*



---

## PDF ブックおよびインフォメーション・センター

PDF ブックは、印刷およびオフラインでの参照用に提供されています。最新情報については、オンラインのインフォメーション・センターを参照してください。

PDF ブック一式には、インフォメーション・センターと同じ内容が含まれています。PDF ブック内のリンクの一部はインフォメーション・センターで使用するよう調整されているため、正しく機能しない場合があります。

PDF 文書は、インフォメーション・センターのメジャー・リリース (バージョン 7.0 やバージョン 7.5 など) が出た後、四半期内に使用可能になります。

PDF 資料の更新頻度はインフォメーション・センターより低いですが、Redbooks<sup>®</sup> よりも頻繁に更新されます。一般的に PDF ブックは、ブックに対する変更が十分累積されたときに更新されます。



# 目次

## PDF ブックおよびインフォメーション・

センター . . . . . iii

## IBM Integration Designerのインストール 1

概要 . . . . .	1
IBM Installation Manager . . . . .	1
インストールの計画 . . . . .	2
テスト環境 . . . . .	2
セキュリティーの考慮事項 . . . . .	3
共存についての考慮事項 . . . . .	4
非管理ユーザーの考慮事項 . . . . .	5
インストールの準備 . . . . .	5
Linux システムのインストール準備 . . . . .	6
Windows システムのインストール準備 . . . . .	8
製品ランチパッドからのインストール . . . . .	8
標準インストールおよび環境 . . . . .	9
IBM Installation Manager によるインストール . . . . .	11
IBM Forms ソフトウェアのインストール . . . . .	21
サイレント・インストール . . . . .	23
IBM Installation Manager の使用 . . . . .	25
Installation Manager のインストール (Windows の場合) . . . . .	25
Installation Manager のインストール (Linux の場合) . . . . .	25
Installation Manager の開始 (Windows の場合) . . . . .	26

Installation Manager の開始 (Linux の場合) . . . . .	26
Installation Manager のアンインストール (Windows の場合) . . . . .	27
Installation Manager のアンインストール (Linux の場合) . . . . .	27
プロキシー・サーバーを介した Installation Manager の更新 . . . . .	27
サイレント・モードでの Installation Manager のインストールとアンインストール . . . . .	27
パッケージ・グループおよび共用リソース・ディレクトリー . . . . .	28
Installation Manager でのリポジトリー設定 . . . . .	29
IBM Integration Designer の始動 . . . . .	30
IBM Integration Designer 始動時の "-clean" オプションの使用 . . . . .	31
Citrix プレゼンテーション・サーバーへのインストール . . . . .	32
Citrix プレゼンテーション・サーバーの構成 . . . . .	32
インストール済み環境の変更 . . . . .	34
IBM Integration Designer の更新 . . . . .	35
IBM Integration Designer のアンインストール . . . . .	36
のサイレント・アンインストール . . . . .	37
更新のロールバック . . . . .	38
インストール・プロセスのトラブルシューティング . . . . .	39



---

# IBM Integration Designerのインストール

このインストール情報では、IBM® Integration Designer V7.5 とオプション・フィーチャーのインストールおよびアンインストールについて説明します。

製品の制限事項、既知の問題、およびそれらの回避策については、IBM Integration Designer のリリース情報ファイルを参照してください。

---

## 概要

このインストール情報では、IBM Installation Manager を使用した IBM Integration Designer のインストール、更新、およびアンインストールの手順について説明します。

更新した資料およびトラブルシューティング情報については、IBM Integration Designer サポート・サイトを参照してください。

## IBM Installation Manager

IBM Installation Manager は、ワークステーション上での IBM Integration Designer パッケージのインストールを支援するプログラムです。また、インストールしたさまざまなパッケージの更新、変更、およびアンインストールも支援します。パッケージとは、Installation Manager によってインストールされる設計になっている製品、コンポーネントのグループ、または単一のコンポーネントです。

IBM Installation Manager には、いくつかの時間節約のための機能があります。ユーザーが何をインストールしようとしているか、既にインストール済みのソフトウェア・コンポーネント、およびユーザーに代わって自動的にインストール可能なコンポーネントを追跡します。また、ユーザーが確実に最新バージョンの IBM Integration Designer 製品パッケージをインストールするように、更新を検索します。また、Installation Manager は、インストールする製品パッケージのライセンス管理用のツールを備えています。パッケージの更新と変更のためのツールもあります。また、Installation Manager を使用して、製品パッケージをアンインストールすることもできます。

Installation Manager には、各製品パッケージをそれぞれのライフ・サイクルを通して容易に保守できるようにする次の 7 つのウィザードがあります

- 「**パッケージのインストール**」ウィザードでは、インストール・プロセスを手順を追って説明します。デフォルト値をそのまま受け入れて製品パッケージをインストールすることができます。あるいは、デフォルトの設定に変更を加えて、カスタム・インストールを作成することもできます。製品パッケージをインストールする前に、ウィザード全体を通してユーザーが選択した項目すべての要約が表示されます。このウィザードでは、一度に 1 つ以上の製品パッケージをインストールすることができます。
- 「**パッケージの更新**」ウィザードは、インストール済みの製品パッケージに対する使用可能な更新を検索します。更新には、製品のリリースされたフィックス、

新しいフィーチャー、新バージョンなどがあります。このウィザードでは、更新の内容の詳細が提供されます。更新を適用するかどうか選択することができます。

- 「**パッケージの変更**」ウィザードでは、インストール済みのパッケージの特定の要素を変更することができます。製品パッケージの最初のインストール時には、インストールするフィーチャーを選択します。ほかのフィーチャーが必要であることが後で分かった場合、「パッケージの変更」ウィザードを使用して、製品パッケージのインストール済み環境にそのフィーチャーを追加することができます。また、フィーチャーの除去、および言語の追加または除去も可能です。
- 「**ライセンスの管理**」ウィザードは、使用するパッケージ用のライセンスのセットアップを支援します。お試し版ライセンスをフル・ライセンスに変更する場合、サーバーをフローティング・ライセンス用にセットアップする場合、および各パッケージで使用するライセンスのタイプを選択する場合にこのウィザードを使用します。このウィザードは IBM Integration Designer パッケージでは使用されません。
- 「**インポート**」ウィザードは、Installation Manager 以外のインストール・ツールを使用してインストールされた既存のパッケージを追加して、Installation Manager で管理できるようにするのに役立ちます。
- 「**パッケージのロールバック**」ウィザードでは、以前にインストールしたバージョンの適格パッケージに戻すことができます。
- 「**パッケージのアンインストール**」ウィザードは、コンピューターから製品パッケージを除去するときに役立ちます。複数のパッケージを一度にアンインストールすることができます。

---

## インストールの計画

IBM Integration Designer について、実際にソフトウェアをエンタープライズ情報システムに導入する前に、計画を立てておくと、実装するシステムをニーズに適合させることができます。このセクションでは、IBM Integration Designer について計画する方法について説明します。

### テスト環境

ローカル・テスト環境またはリモート・テスト環境を使用できます。リソース (CPU、メモリー、ディスク・スペース) に関する制約があるシステムを使用する開発者は、リモートのテスト環境を構成して、プロセスとモニター・モデルのテスト用に、そのリモート環境にある IBM Integration Designer を参照することを検討してください。

IBM Integration Designer 開発者がリモート環境をセットアップする方法は、ターゲットのデプロイメント環境によって異なります。

### Process Server

単体テスト用の Process Server テスト環境では、サーバーをローカルにインストールするか、リモート・マシン上にインストールすることができます。Process Server をローカルにインストールした場合は、IBM Integration Designer によって検出さ

れ、「サーバー」ビューに表示されます。Process Server をリモートにインストールした場合は、新規サーバーを作成することで、IBM Integration Designer からターゲットに設定することができます。

1. 「サーバー」ビューで右クリックし、「新規」 > 「サーバー」を選択します。
2. 「IBM」 > 「IBM Process Server v7.5」を選択します。
3. リモート・サーバー・ホスト名を指定して、「次へ」をクリックします。
4. プロファイル名、接続情報、およびセキュリティ情報を指定して、「終了」をクリックします。

## Process Center 経由の Process Server

前述したとおり、単体テスト用の Process Server テスト環境がある場合は、サーバーをローカルにインストールするか、リモート・マシン上にインストールすることができます。Process Center のみ存在する場合は、Process Center パースペクティブに切り替えることができます。この場合は、Process Center への接続情報を求めるプロンプトが出されます。リモート・サーバーをターゲットに設定するには、以下の手順を実行します。

1. Process Center で、「ウィンドウ」 > 「設定」を選択します。
2. 「ビジネス・インテグレーション」 > 「Process Center」を選択します。
3. Process Center の URI、ユーザー名、およびパスワードを指定します。
4. 「接続のテスト」をクリックします。すべてが正しい場合は、「OK」をクリックします。

リモート・サーバーに関する通信問題 (リモート・サーバーへの公開時や、サーバー状況の取得時の問題など) がある場合は、『リモート・サーバーに関する通信問題の解決』を参照してください。

## セキュリティの考慮事項

IBM Integration Designer V7.5 では、管理セキュリティとアプリケーション・セキュリティの両方がデフォルトで使用可能です。

IBM Integration Designer V7.5 と共にインストールすることを選択したテスト環境サーバーでは、管理セキュリティとアプリケーション・セキュリティを含むサーバー・セキュリティが自動的に使用可能になります。

テスト環境のインストール中に、サーバー・セキュリティの管理に使用されるユーザー名およびパスワードの入力を求めるプロンプトが出されます。

サーバーの管理コンソールで、サーバー・セキュリティを使用不可または使用可能にした場合、サーバー構成エディターや IBM Integration Designer の「ウィンドウ」 > 「設定」 > 「サーバー」 > 「セキュリティ」の設定ページでも同じサーバーに対してこれらの変更が設定されていることを確認する必要があります。

ユーザー ID とパスワードの変更、およびサーバー・セキュリティの使用不能化または使用可能化については、IBM Integration Designer ヘルプのセキュリティ資料 (「ヘルプ」 > 「ヘルプ目次」 > 「IBM Integration Designer」 > 「セキュリティの管理」) で説明しています。

## 共存についての考慮事項

1 つのワークステーション上に複数の IBM Eclipse ベース製品をインストールする場合は、このセクションの情報を確認してください。

### オフリングの共存についての考慮事項

いくつかの製品は、同じパッケージ・グループにインストールされたときに共存し、機能を共有する設計になっています。パッケージ・グループとは、共通のユーザー・インターフェースまたはワークベンチを共有する 1 つ以上のソフトウェア製品またはパッケージをインストールできる場所です。各パッケージをインストールするときには、そのパッケージを既存のパッケージ・グループにインストールするか、新しいパッケージ・グループを作成するかを選択します。IBM Installation Manager は、パッケージ・グループを共有するように設計されていない製品、またはバージョンの許容範囲およびその他の要件を満たさない製品をブロックします。一度に複数の製品をインストールする場合は、すべての製品が 1 つのパッケージ・グループを共有できなければなりません。

適格製品であれば、1 つのパッケージ・グループにいくつでもインストールすることができます。製品をインストールすると、その機能がパッケージ・グループ内のほかのすべての製品と共有されます。開発製品とテスト中の製品を 1 つのパッケージ・グループにインストールした場合、どちらかの製品を始動すると、ご使用のユーザー・インターフェース内で、開発とテストの両方の機能が使用可能になります。モデル化ツールを備えた製品を追加した場合は、パッケージ・グループ内のすべての製品で開発、テスト、さらにモデル化の機能を使用できます。

IBM Integration Designer V7.5 を Rational<sup>®</sup> ソフトウェア製品 (例えば、Rational Application Developer for WebSphere<sup>®</sup> Software など) と共存させる場合は、Rational ソフトウェア製品はバージョン 8.0.2 以上である必要があります。Rational ソフトウェア製品がそれより前のバージョンである場合は、バージョンを 8.0.2 以上に更新してこの非互換性を訂正するか、新規パッケージ・グループを選択する必要があります。Rational ソフトウェア製品を IBM Integration Designer V7.5 と同じパッケージ・グループに追加する場合は、Rational のインストール時に、(「他のバージョンと拡張の確認 (Check for Other Versions and Extensions)」を使用して) 使用可能な更新を検索することによって、またはベースの Rational リポジトリの場所とともに 8.0.2 の更新リポジトリの場所を指すことによって、Rational ソフトウェア製品に必要な 8.0.2 (またはそれ以上の) レベルで直接インストールする必要があります。

Eclipse ベース製品との共存について詳しくは、『Planning for IBM Integration Designer to coexist with other Eclipse-based products』を参照してください。

注: 固有の場所にインストールされている各製品は、1 つのパッケージ・グループにのみ関連付けることができます。複数のパッケージ・グループに関連付けるためには、1 つの製品を複数の場所にインストールする必要があります。

### IBM Integration Designer の共存インストール

IBM Integration Designer V7.5 の既存インストールが存在するシステムに IBM Integration Designer V7.5 をインストールすることは可能ですが、この 2 つを同じパッケージ・グループに組み込むことはできません。

同様に、IBM Integration Designer が以前にインストールされているシステムに IBM Integration Designer V7.5 をインストールすることは可能ですが、この 2 つを同じパッケージ・グループに組み込むことはできません。

## 非管理ユーザーの考慮事項

非管理ユーザーまたは非 root ユーザーとして IBM Integration Designer をインストールする場合は、インストールを開始する前に DB2 サーバーをインストールしておく必要があります。インストール中に入力できるようにデータベースの詳細を覚えておいてください。

このトピックで説明する考慮事項は、「標準」インストール・オプションを使用したインストールを選択するすべてのインストール・シナリオに適用されます。「標準」オプションを使用してインストールする場合は、プロファイルが自動的に作成されます。

非管理ユーザーとしてインストールする場合、以下の中から選択できます。

- 製品をインストールする前に、DB2 サーバーを個別にインストールします。非管理ユーザーまたは非 root ユーザーとしての DB2 のインストールについては、以下を参照してください。
  -  Linux 非 root インストールの概要 (Linux および UNIX)
  -  Windows DB2 サーバー製品のインストールに必要なユーザー・アカウント (Windows)
- 管理者としてログオンし、製品インストーラーを使用して DB2 サーバーを単独でインストールします。非管理ユーザーに特別な権限を付与します。次に、非管理ユーザーとしてログオンし、インストール済みの DB2 サーバーを使用して製品をインストールします。

注: 製品に組み込まれている (オプションでインストールされる) DB2 Express データベースを使用することを選択した場合は、以下の基準を満たす必要があります。

- システムから他のバージョンの DB2 をアンインストールする
- 非管理ユーザーまたは非 root ユーザーとして IBM Business Process Manager をインストールする

---

## インストールの準備

インストール・プロセスを開始する前に完了させておく必要があるタスクがいくつかあります。

以前のバージョンの IBM Integration Designer は、V7.5 にアップグレードできません。異なるバージョンの IBM Integration Designer をワークステーション上に共存させることはできますが、同じディレクトリーにインストールすることはできません。

製品をインストールする前に、以下の手順を完了します。

1. ご使用のシステムが、IBM Integration Designer のシステム要件(IBM Integration Designer)に記載されたハードウェア要件およびソフトウェア要件を満たしていることを確認します。

2. セクション 2 ページの『インストールの計画』を読みます。特に、トピック 4 ページの『共存についての考慮事項』に注意してください。
3. 説明に従って、オペレーティング・システムを準備します。

## Linux システムのインストール準備

IBM Integration Designer をインストールする前に、Linux オペレーティング・システムを準備する必要があります。

WebSphere Application Server は IBM Integration Designer の前提条件であるため、WebSphere Application Server インフォメーション・センターの『製品インストールのためのオペレーティング・システムの準備』のトピックにある必要な準備手順をすべて実行する必要があります。

Mozilla Firefox バージョン 3.5.x.x 以上がインストールされていることを確認します。

一部のステップはオペレーティング・システムの特定のバージョンに固有であるため、すべてのステップがご使用の環境に適用されるとは限りません。ステップに修飾子が付与されていない場合は、オペレーティング・システムのすべてのバージョンに対してそのステップを実行してください。Installation Manager を Red Hat Enterprise Linux 6.0 (64 ビット) にインストールするには、『Unable to install Installation Manager on RHEL 6.0 (64-bit)』を参照してください。

DB2 Express を Red Hat Enterprise Linux 6 とともに使用する計画の場合:

- DB2 Express のインストールを開始する前に、以下のコマンドを root として実行する必要があります。

```
sysctl -w kernel.shmmax=268435456
```

このコマンドは、システムが再始動されるまでの間のみ適用されます。問題を永続的に修正するには、以下のコマンドを実行します。

```
/etc/sysctl.conf:  
kernel.shmmax = 268435456
```

- `ksh-version.rpm` Korn シェルをインストールする必要があります。

IBM Integration Designer をインストールする前に、ご使用の Linux システム上で以下の手順を実行します。

1. オープン・ファイルの最大数を少なくとも 8800 に増やします。デフォルト設定は通常、十分ではありません。ulimit -n を使用してオープン・ファイルの最大数を表示すると、オープン・ファイルの現在の最大数を確認できます。以下の例は、8800 に増やされたオープン・ファイルの最大数を示しています。 

- a. `/etc/security/limits.conf` を開きます。
- b. `nofile` パラメーターを見つけ、値を増やします。 `nofile` パラメーターを含む行がない場合は、以下の行をファイルに追加します。

```
* hard nofile 8800
```

```
* soft nofile 8800
```

- c. ファイルを保存して閉じます。

d. ログオフし、ログインし直します。

この設定について詳しくは、`man limits.conf` を実行するか、WebSphere Application Server インフォメーション・センターの『製品インストールのためのオペレーティング・システムの準備』のトピックを参照してください。

2. ご使用のオペレーティング・システム用の以下のパッケージをインストールします。

オプション	説明
Red Hat Enterprise Linux 5	compat-libstdc++-33-3.2.3-61 compat-db-4.2.52-5.1 libXp-1.0.0-8 rpm-build-4.4.2-37.el5 <b>64 ビット・カーネルのみ:</b> compat-libstdc++-296-2.96-138
Red Hat Enterprise Linux 6	ksh-version.rpm Korn シェル  『Unable to install Installation Manager on RHEL 6.0 (64-bit)』の詳細説明およびパッケージのリストを参照してください。
SUSE Linux Enterprise Server 9.0	XFree86-libs-32bit-9 glibc-32bit-9 glib-32bit-9 gtk-32bit-9

正誤表としての新規パッケージがある場合は、これらのいずれかのパッケージの、より新しいリリースを後でインストールすることもできます。ご使用のハードウェアに固有の追加パッケージがある場合は、インストールします。

単一行コマンドを使用して、従属ソフトウェア (すべての必要なパッケージ) をインストールできます。以下のコマンドは、サポートされる Linux ディストリビューション上でデフォルトのパッケージ・マネージャーを使用する例です。

- **Red Hat Enterprise Linux 5 (32 ビット):**

```
yum install compat-libstdc++-33 compat-db libXp rpm-build RHEL 5.x
```

- **Red Hat Enterprise Linux 5 (64 ビット):**

```
yum install compat-libstdc++-33 compat-db libXp rpm-build compat-libstdc++-296
```

- **SUSE Linux:**

```
zypper install XFree86-libs-32bit-9 glibc-32bit-9 glib-32bit-9 gtk-32bit-9
```

3. 以下のコマンドを使用して `umask` の値を 022 に設定します。

```
umask 022
```

4. Red Hat Enterprise Linux 5 システムの場合、SELinux を使用不可に設定するか、または許容モードに設定します。
5. コンピューターを再始動します。
6. 手順を実行して、Tune Linux システムの調整を行ってください。

## Windows システムのインストール準備

IBM Integration Designer をインストールする前に、Windows オペレーティング・システムを準備する必要があります。

WebSphere Application Server は IBM Integration Designer テスト環境の前提条件となるため、テスト環境を使用する場合は、必須の準備ステップをすべて完了しておく必要があります。

テスト環境を使用する場合は、IBM Integration Designer をインストールする前に、Windows システムで以下の手順を実行します。

1. WebSphere Application Server インフォメーション・センターの『Windows システムのインストール準備』のトピックにある手順を実行します。
2. 手順を実行して、Windows システムの調整を行ってください。

---

## 製品ランチパッドからのインストール

製品ランチパッド・プログラムは、リリース情報を表示したり、インストール・プロセスを開始したりするための単一のロケーションを提供します。

5 ページの『インストールの準備』の説明に従って、インストール前のタスクを完了します (まだ完了していない場合)。

**重要:** 非管理ユーザーまたは非 root ユーザーとして IBM Integration Designer をそのテスト環境と一緒にインストールし、さらにテスト環境をインストールする場合は、製品のインストールを開始する前に DB2 をインストールする必要があります。

 IBM Integration Designer を Windows 7、Windows Vista、または Windows Server 2008 上でインストールまたは実行するには、ご使用の Microsoft Windows ユーザー・アカウントの特権を昇格する必要があります。管理ユーザーか非管理ユーザーかに関係なく、launchpad.exe を右クリックして「管理者として実行」を選択します。

次の場合は、製品ランチパッド・プログラムを使用して IBM Integration Designer テスト環境のインストールを開始してください。

- 製品 DVD からインストールする
- ローカル・ファイル・システム上の電子インストール・イメージからインストールする
- 共有ドライブ上の電子インストール・イメージからインストールする

ランチパッド・プログラムからインストール・プロセスを開始すると、IBM Installation Manager がコンピューターにまだインストールされていない場合は自動的にインストールされ、IBM Integration Designer パッケージが含まれているリポジトリのロケーションで自動的に構成されます。Installation Manager を単独でインストールし、それを使用して IBM Integration Designer をインストールする場合は、IBM Integration Designer のリポジトリ・ロケーションを手動で設定する必要

があります。Installation Manager にリポジトリ設定を行う方法について詳しくは、29 ページの『Installation Manager でのリポジトリ設定』を参照してください。

ランチパッド・プログラムを開始するには、以下の手順を実行します。

1. 最初の IBM Integration Designer DVD を DVD ドライブに挿入します。

 DVD ドライブがマウントされたことを確認します。

2. システムで自動実行が使用可能な場合は、IBM Integration Designer Launchpad プログラムが自動的に開きます。システムで自動実行が使用可能になっていない場合は、以下の手順に従います。
  - DVD のルート・ディレクトリーにある `launchpad.sh` を実行します。
  - DVD のルート・ディレクトリーにある `launchpad.exe` か、64 ビット・システムの場合は `launchpad64.exe` を実行します。
3. Windows で Administrator グループに属している場合、あるいは Linux システムで root ユーザーである場合は、「**管理ユーザーとしてのインストール**」が選択されていることを確認します。このチェック・ボックスをクリアするのは、自身が管理ユーザーではない場合、または他のユーザーに特権を付与せずに自身のユーザー名にインストールする場合のみです。
4. 必要な標準のインストール環境を選択します。選択内容に応じて、ワークスペースおよび「ようこそ」画面が構成され、必要な機能が強調されます。環境は、IBM Integration Designer において、後で変更することができます。詳しくは、『標準インストールおよび環境』を参照してください。
5. 「**選択内容のインストール (Install Selected)**」をクリックしてインストールを開始します。IBM Installation Manager が起動するか、インストールされた後に起動します。
6. 11 ページの『IBM Installation Manager によるインストール』の指示に従い製品をインストールします。

ランチパッドで「ヘルプ・システムのインストール」をクリックして、インフォメーション・センターをインストールすることができます。

## 標準インストールおよび環境

IBM Integration Designer のインストール時に、ランチパッドから標準インストール構成を選択します。選択する事前選択された構成によって、IBM Integration Designer の開始時に使用可能になる環境が決まります。インストール時に構成の選択を変更できるほか、後で Installation Manager を実行して変更することもできます。また、後で IBM Integration Designer で環境を変更することもできます。

### IBM Integration Designer for IBM Business Process Manager Advanced - Process Server

このインストール構成は、IBM Process Server テスト環境を含み、WebSphere Enterprise Service Bus およびオプションの IBM Business Monitor もサポートします。以下のパッケージがインストール対象として選択されます。

- WebSphere Application Server Network Deployment
- WebSphere Application Server Feature Pack for Service Component Architecture

- WebSphere Application Server Feature Pack for XML
- IBM Business Process Manager Advanced - Process Server
- DB2 Express
- Integration Designer

IBM Business Process Manager Advanced - Process Server のデフォルトのスタンドアロン・プロファイルは、「フィーチャー」ページ上で選択されます。このプロファイルにより、テスト環境の使用を即時に開始できます。

デフォルトで、「最初に **IBM Process Center** で作業を開始する」が選択されているので、プロセスの成果物、アプリケーション、およびサービスの編成と管理のためのスケーラブルな中央リポジトリでありコントロール・センターでもある Process Center で作業を始めることができます。

## IBM Integration Designer for WebSphere Enterprise Service Bus

このインストール構成は、IBM Integration Designer テスト環境を含み、オプションで IBM Business Monitor もサポートします。以下のパッケージがインストール対象として選択されます。

- WebSphere Application Server Network Deployment
- WebSphere Application Server Feature Pack for Service Component Architecture
- WebSphere Application Server Feature Pack for XML
- IBM Business Process Manager Advanced - Process Server
- DB2 Express
- Integration Designer

WebSphere Enterprise Service Bus のデフォルトのスタンドアロン・プロファイルは、「フィーチャー」ページ上で選択されます。このプロファイルにより、テスト環境の使用を即時に開始できます。

### Windows

## IBM Integration Designer for IBM Business Monitor

Windows の場合のみ、このインストール構成には、IBM Business Monitor、モニター・モデル・エディター (IBM Integration Designer 内のフィーチャー)、および IBM Business Monitor テスト環境が含まれます。以下のパッケージがインストール対象として選択されます。

- WebSphere Application Server Network Deployment
- WebSphere Application Server Feature Pack for XML
- Business Monitor
- IBM Cognos Business Intelligence
- DB2 Express
- Integration Designer

Business Monitor のデフォルトのスタンドアロン・プロファイルは、「フィーチャー」ページ上で選択されます。このプロファイルにより、テスト環境の使用を即時に開始できます。

## IBM Integration Designer for WebSphere DataPower

このインストール構成は、WebSphere DataPower アプライアンスと直接連携し、テスト環境は含まれません。Integration Designer パッケージのみがインストール対象として選択されます。

## IBM Integration Designer

このインストール構成には、テスト環境は含まれません。Integration Designer パッケージのみがインストール対象として選択されます。

## IBM Forms

IBM Integration Designer を使用して、ヒューマン・タスクに関連するビジネス・アプリケーションをビルドできます。これらのタスクは、ユーザーによって実行されるため、ユーザー・インターフェースが必要です。これらのユーザー・インターフェースで使用可能なテクノロジーは多数あり、その中の 1 つのオプションが、IBM Forms の使用です。

IBM Forms の表示、作成、および編集に必要なソフトウェアをインストールするには、『IBM Forms ソフトウェアのインストール (Installing IBM Forms software)』を参照してください。

### 関連タスク

『IBM Installation Manager によるインストール』

Installation Manager を使用して IBM Integration Designer を対話式にインストールできます。

21 ページの『IBM Forms ソフトウェアのインストール』

IBM Forms ソフトウェアは、IBM Integration Designer に含まれており、オプションでインストールできます。

## IBM Installation Manager によるインストール

Installation Manager を使用して IBM Integration Designer を対話式にインストールできます。

**重要:** 非管理ユーザーまたは非 root ユーザーとして IBM Integration Designer をそのテスト環境と一緒にインストールし、さらにテスト環境をインストールする場合は、製品のインストールを開始する前に DB2 をインストールする必要があります。

ランチパッドを使用してこの製品をインストールする場合、Installation Manager は自動的に起動および構成されるため、ステップ 2 に直接進んでかまいません。

1. オプション: ランチパッドからインストールしない場合は、以下のステップを実行します。

- a. Windows の「スタート」メニューまたはコマンド行から、Installation Manager を始動します。詳しくは、『Installation Manager の開始』を参照してください。

注: Installation Manager の新しいバージョンが見つかった場合は、続行するにはそのバージョンのインストールが必要であることを確認するためのプロンプトが出されます。「OK」をクリックして続行します。Installation Manager の新規バージョンのインストール、再始動、および再開が自動的に行われます。
  - b. 『29 ページの『Installation Manager でのリポジトリ設定』』の指示に従ってリポジトリのロケーションを定義します。リポジトリ・ロケーションは `image_directory/disk1/IMwid75/repository.config` (IBM Integration Designer の場合) および `image_directory/WTE_Disk/repository/repository.config` (テスト環境の場合) です。ここで、`image_directory` には、IBM Integration Designer の解凍済みインストール・イメージが入ります。
  - c. Installation Manager の「開始」ページで、「インストール」をクリックします。
2. 「パッケージのインストール」ウィザードの「インストール」ページには、Installation Manager が検索したリポジトリで見つかったすべてのパッケージがリストされます。1 つのパッケージのバージョンが 2 つ見つかった場合は、最新のバージョンまたは推奨されるバージョンのパッケージのみが表示されます。
    - Installation Manager で検索された任意のパッケージのすべてのバージョンを表示するには、「すべてのバージョンを表示」チェック・ボックスを選択します。
    - 推奨パッケージのみの表示に戻すには、「すべてのバージョンを表示」チェック・ボックスをクリアします。
  3. IBM Integration Designer パッケージに対する更新の有無を検索するには、「他のバージョン、フィックス、拡張の確認 (Check for Other Versions, Fixes, and Extensions)」をクリックします。

注: Installation Manager で、インストール済みパッケージの事前定義 IBM 更新リポジトリ・ロケーションを検索するには、「リポジトリ」設定ページで「インストールおよび更新時にサービス・リポジトリの検索」設定が選択されている必要があります。この設定は、デフォルトで選択されています。インターネット・アクセスも必要です。

Installation Manager は、製品パッケージの事前定義された IBM 更新リポジトリで、更新を検索します。さらに、ユーザーが設定したリポジトリ・ロケーションも検索します。進行標識で、検索が実行されていることが示されます。基本製品パッケージのインストール時に、更新も同時にインストールできます。

4. IBM Integration Designer パッケージの更新が見つかった場合は、「パッケージのインストール」ページで、対応する製品の下に「インストール・パッケージ」リストに表示されます。推奨される更新のみがデフォルトで表示されません。

- 使用可能なパッケージ用に見つかったすべての更新を表示するには、「すべてのバージョンを表示」 チェック・ボックスを選択します。
  - 「詳細」でパッケージの説明を表示するには、パッケージ名をクリックします。README ファイルやリリース・ノートなど、パッケージに関する追加情報がある場合は、説明テキストの最後に「詳細」リンクが表示されます。リンクをクリックすると、追加情報がブラウザに表示されます。インストールするパッケージについて十分に理解するために、前もってすべての情報を確認してください。
5. インストールする IBM Integration Designer パッケージとパッケージに対する更新が選択されていることを確認します。依存関係がある更新は、自動的に一緒に選択またはクリアされます。ユーザーが選択したインストール構成に基づいて、パッケージ・セットが選択されます。必要に応じて、このセットに以下の変更を加えてください。
- ヒューマン・タスクへのユーザー・インターフェースとして IBM Forms を作成する場合は、**IBM Forms Designer** を選択します。
  - Windows を使用しており、管理ユーザーではない場合は、**IBM Cognos Business Intelligence** のチェック・ボックスをクリアします。
  - ローカル・データベースが既にインストールされているか、管理ユーザーではない場合は、**DB2 Express** のチェック・ボックスをクリアします。
- 「次へ」をクリックします。

注: 同時に複数のパッケージをインストールする場合は、すべてのパッケージが同じパッケージ・グループにインストールされます。

前提条件チェック中に以下の警告メッセージが表示された場合は、以下のプラットフォーム固有の手順に従って、ulimit 数を増やします。

現行システムでは、推奨値の 8799 より低いレベルの ulimit が検出されました。ulimit 数を最小値の 8799 まで増やし、インストールを再開します。

インストーラーをシャットダウンします。  
root ユーザーの場合は、コマンド・プロンプトを開き、ulimit -n 8799 を実行して、インストーラーを再始動します。非 root ユーザーの場合は、システム管理者と協力して、ulimit -n 8799 の値を増やし、インストーラーを再始動します。

以下のコマンドを使用して、オープン・ファイルの最大数を設定します。

Linux

- a. /etc/security/limits.conf を開きます。
  - b. nofile パラメーターを見つけ、値を増やします。nofile パラメーターを含む行がない場合は、以下の行をファイルに追加します。
 

```
* hard nofile 8800
* soft nofile 8800
```
  - c. ファイルを保存して閉じます。
  - d. ログオフし、ログインし直します。
6. 「ライセンス」ページで、選択したパッケージのご使用条件を読みます。

インストールするパッケージを複数選択すると、パッケージごとにご使用条件がある場合があります。「ライセンス」ページの左側で、ご使用条件を表示す

る各パッケージのバージョンをクリックします。インストールするように選択したパッケージのバージョン (例えば基本パッケージと更新) が、パッケージ名の下にリストされます。

- a. すべてのご使用条件に合意する場合は、「**使用条件の条項に同意します**」をクリックします。
  - b. 「**次へ**」をクリックして先に進みます。
7. **Installation Manager** を使用して最初にインストールするパッケージが **IBM Integration Designer V7.5** である場合、「**ロケーション**」ページの「**共用リソース・ディレクトリー (Shared Resources Directory)**」フィールドに共用リソース・ディレクトリーのパスを入力するか、デフォルトのパスを受け入れます。共用リソース・ディレクトリーには、1 つ以上のパッケージ・グループで共用できるリソースが格納されます。

**重要:**

- a. 共用リソース・ディレクトリーを指定できるのは、パッケージの初回インストール時のみです。共用リソース・パッケージ用に十分なスペースを確保するために、最大の容量があるディスクを使用してください。すべてのパッケージをアンインストールしない限り、このディレクトリーの場所は変更できません。
- b. インストール・パスに括弧が含まれていないことを確認してください。
- c.  **Linux** インストール・パスにスペースが含まれていないことを確認してください。

「**次へ**」をクリックして先に進みます。

8. 次の「**ロケーション**」ページでは、**IBM Integration Designer** パッケージをインストールするパッケージ・グループを作成するか、既存のパッケージ・グループを使用することができます。パッケージ・グループとは、各パッケージが同じグループに属するほかのパッケージとリソースを共用する場所であるディレクトリーを意味します。デフォルトでは、**IBM Integration Designer V7.5** 用の新規パッケージ・グループが作成されます。**Installation Manager** が別のパッケージ・グループを認識している場合、「**既存のパッケージ・グループの使用**」オプションが選択可能になります。新しいパッケージ・グループを作成するには、以下の手順に従います。

- a. 「**新規パッケージ・グループの作成**」を選択します。
- b. パッケージ・グループのインストール・ディレクトリーのパスを入力します。インストール・パスに括弧が含まれていないことを確認してください。  
( **Linux** ディレクトリー・パスにスペースが含まれていないことを確認してください。) パッケージ・グループの名前は自動的に作成されます。

デフォルトのインストール・パスは以下のとおりです。

-  **Windows** C:¥IBM¥IntegrationDesigner¥v7.5
-  **Linux** root: /opt/IBM/IntegrationDesigner/v7.5
-  **Linux** 非 root: user\_home/IBM/IntegrationDesigner/v7.5

- c. テスト環境を作成する場合は、テスト環境のデフォルト・パスを変更できます。「**WebSphere Application Server - ND**」を選択し、テスト環境のパスを入力します。例えば、IBM Business Process Manager Advanced - Process Server をインストールする場合は、パスを C:¥IBM¥Process Server¥v7.5 に変更可能です。

デフォルトのテスト環境のインストール・パスは以下のとおりです。

-  **Windows** C:¥Program Files¥IBM¥WebSphere¥AppServer
-  **Linux** root: /opt/IBM/WebSphere/AppServer/
-  **Linux** 非 root: user\_home/IBM/WebSphere/AppServer/

- d. 「次へ」をクリックして先に進みます。
9. 「言語」ページで、このソフトウェアを使用するときをサポートできるようにするすべての言語を選択し、「次へ」をクリックします。
10. 「フィーチャー」ページで、インストールするパッケージ・フィーチャーを選択します。選択しなかった場合、インストール可能なフィーチャーとして表示されません。
  - a. オプション: フィーチャー間の依存関係を表示するには、「**依存関係の表示**」を選択します。
  - b. オプション: フィーチャーをクリックすると、「**詳細**」に要旨が表示されます。
  - c. パッケージ内のフィーチャーを選択またはクリアします。Installation Manager によって自動的に他のフィーチャーとの依存関係が適用され、更新されたダウンロード・サイズとインストールのディスク・スペース要件が表示されます。
    - **IBM Integration Designer** を展開する場合は、使用可能なフィーチャーのリストから選択することができます。インストール構成に基づいて既に選択されているフィーチャーもあります。「パッケージのインストール」ページで IBM Forms Designer のインストールを選択した場合は、それがここに表示され、選択されます。
    - **IBM Business Process Manager Advanced - Process Server** または **Business Monitor Server** を展開し、1 つ以上のスタンドアロン開発プロファイルを選択する場合は、これらのプロファイルがインストール時に作成されます。ユーザーが選択した機能セットに基づいて、プロファイルがすでに選択されている場合もあります。

スタンドアロン開発プロファイルは、テスト環境を提供するデフォルトの開発プロファイルです。Process Server 開発プロファイルでは、ビジネス・ルール・マネージャーも使用可能に設定されています。

デフォルトのスタンドアロン開発プロファイルをインストールしないように選択しても、Installation Manager を起動して、最初のページで「**変更**」をクリックすると、後からインストールすることができます。

- d. フィーチャーの選択が終了したら、「次へ」をクリックして続行します。

11. スタンドアロン開発プロファイルを選択した場合は、「プロファイル」ページで、作成するテスト・サーバーの資格情報を入力します。デフォルトのユーザー名は admin、デフォルトのパスワードは admin です。
12. DB2 Express を選択した場合は、「共通構成」ページで、DB2 のユーザー名とパスワードを入力し、「次へ」をクリックします。デフォルトのユーザー名は bpmadmin、デフォルトのパスワードは bpmadmin1 です。

**重要:** デフォルトのパスワードがご使用のオペレーティング・システム (例えば Windows 2008) のパスワード・ポリシーに準拠していない場合、パスワードを変更する必要があります。

**制約事項:** ユーザー名に NL スtringを含めることはできません。

13. IBM Integration Designer パッケージをインストールする前に、「要約」ページで、行った選択を検討します。これまでのページで行った選択を変更するには、「戻る」をクリックして変更します。インストールの選択項目が希望どおりになったら、「インストール」をクリックしてパッケージをインストールします。進行標識で、インストールの完了率が示されます。
14. インストール・プロセスが完了すると、プロセス正常終了の確認メッセージが表示されます。
  - a. 「ログ・ファイルの表示」をクリックし、現行セッションのインストール・ログ・ファイルを新しいウィンドウに表示します。続行するには、インストール・ログのウィンドウを閉じる必要があります。
  - b. テスト環境のインストールを選択したかどうかに応じて、終了時にプロファイルを作成するオプションが表示される場合があります。インストールの一部としてスタンドアロン・プロファイルを既に作成している場合は、「なし」を選択します。
  - c. 「終了」をクリックして Installation Manager を閉じます。

## 関連概念

9 ページの『標準インストールおよび環境』

IBM Integration Designer のインストール時に、ランチパッドから標準インストール構成を選択します。選択する事前選択された構成によって、IBM Integration Designer の開始時に使用可能になる環境が決まります。インストール時に構成の選択を変更できるほか、後で Installation Manager を実行して変更することもできます。また、後で IBM Integration Designer で環境を変更することもできます。

『使用可能なフィーチャー』

インストールする IBM Integration Designer のフィーチャーを選択することにより、ソフトウェア製品をカスタマイズすることができます。

## 関連タスク

21 ページの『IBM Forms ソフトウェアのインストール』

IBM Forms ソフトウェアは、IBM Integration Designer に含まれており、オプションでインストールできます。

## 関連資料

20 ページの『インストール・ログ・ファイル』

インストール・ログ・ファイルを使用して、インストール・セッションの結果を検査することができます。

## 使用可能なフィーチャー

インストールする IBM Integration Designer のフィーチャーを選択することにより、ソフトウェア製品をカスタマイズすることができます。

IBM Installation Manager を使用して、IBM Integration Designer 製品パッケージをインストールする場合、インストール・ウィザードに、その製品パッケージで使用可能なフィーチャーが表示されます。フィーチャー・リストから、どのフィーチャーをインストールするかを選択できます。デフォルトのフィーチャー・セット (必須のフィーチャーを含む) は既に選択されています。Installation Manager は、自動的にフィーチャー間の依存関係を守り、必須のフィーチャーをクリアできないようにします。

アダプターは、個別に選択できます。必要なアダプターのみをインストールしてください。

**注:** パッケージのインストールが終了した後、Installation Manager の「パッケージの変更」ウィザードを実行することにより、ソフトウェア製品にフィーチャーを追加したり、フィーチャーを除去したりすることができます。詳しくは、34 ページの『インストール済み環境の変更』を参照してください。

以下の表に、インストールすることを選択できる IBM Integration Designer のフィーチャーを示します。インストールするフィーチャーのデフォルトの選択は、これと異なる場合があります。フィーチャーが既にインストールされている場合は、そのフィーチャーはデフォルトでは選択されず、再度インストールされることはありません。

表 1. インストールすることを選択できる IBM Integration Designer のフィーチャー

フィーチャー・グループ	フィーチャー	説明	デフォルトでの選択
IBM Installation Manager 1.4.3		Installation Manager は、IBM Integration Designer および関連ツールのインストールを支援します。	はい (必須)
Windows IBM Forms Designer 4.0.0.1		IBM Forms Designer を使用すると、ヒューマン・タスクへのユーザー・インターフェースとして使用する IBM Forms を作成および編集できます。	はい (このオプションは、Installation Manager の最初のインストール・パネルで IBM Forms のインストールを選択しなかった場合、表示されません)。
IBM Integration Designer V7.5		IBM Integration Designer のコア機能。包括的な開発環境で統合ソリューションを構築するためのツールを提供します。	はい (必須)
ローカル・サーバーをインストールせずにアプリケーションを開発するためのツール		このオプションは、このサーバーがローカルにはインストールされていない場合に、IBM Process Server V7.5、または WebSphere Enterprise Service Bus V7.5 用のアプリケーションを開発したり、これらのV7.5 のリモート・サーバーに接続したりするために選択します。	いいえ
E メール、フラット・ファイル、FTP、および JDBC IBM WebSphere アダプター		WebSphere Adapter for Email を使用して E メール・サーバーとの間で E メールを送受信します。WebSphere Adapter for Flat Files を使用してローカル・ファイル・システム上のファイルの読み取りおよび書き込みを行います。WebSphere Adapter for File Transfer Protocol (FTP) を使用してリモート・システム上のファイルの読み取りおよび書き込みを行います。WebSphere Adapter for JDBC を使用してデータベース・システムに関するサービスを作成し、このサービスにアクセスします。	はい

表 1. インストールすることを選択できる IBM Integration Designer のフィーチャー (続き)

フィーチャー・グループ	フィーチャー	説明	デフォルトでの選択
その他の IBM WebSphere アダプター		Adapters は、エンタープライズ情報システム (EIS) 上のプログラムやデータにアクセスします。	いいえ
	CICS アダプター	顧客情報管理システム (CICS) トランザクション・システム上の COBOL、C、PL/I プログラムおよびデータと情報交換を行うサービスを作成し、このサービスにアクセスします。	いいえ
	Domino アダプター	IBM Domino サーバーと情報交換を行うサービスを作成します。Domino 文書の作成およびアクセスが可能な統合プロセスを、特別なコーディングをせずに作成します。Outbound 処理では、アダプターは <b>Create</b> 、 <b>Retrieve</b> 、 <b>Update</b> 、 <b>Delete</b> 、 <b>Exists</b> 、および <b>RetrieveAll</b> 操作をサポートします。アダプターは、要求をビジネス・オブジェクトの形でサービスから受信し、その要求を処理して、呼び出し側コンポーネントに回答を返送します。一方、Inbound 処理では、アダプターは、処理できる状態にある Lotus Domino のために、Lotus Domino サーバーを一定の間隔でポーリングします。	いいえ
	ECM アダプター	WebSphere Adapter for Enterprise Content Management を使用して、エンタープライズ・コンテンツ管理システムにコンテンツを作成し、このコンテンツにアクセスします。	いいえ
	IMS アダプター	IBM 情報管理システム (IMS) トランザクション・システム上の COBOL、C、PL/I プログラムおよびデータと情報交換を行うサービスを作成し、このサービスにアクセスします。	いいえ
	iSeries アダプター	プログラム呼び出しマークアップ言語 (PCML) 標準を使用してターゲット IBM i マシン上の RPG、COBOL、およびサービス・プログラムを呼び出すサービスを作成して、このサービスにアクセスし、IBM i データ・キューへのメッセージを送受信します。	いいえ
	JD Edwards アダプター	WebSphere Adapter for JD Edwards EnterpriseOne を使用して JD Edwards EnterpriseOne Server に関するサービスを作成し、このサービスにアクセスします。	いいえ
	Oracle アダプター	Oracle E-Business Suite と情報交換を行うサービスを作成し、このサービスにアクセスします。	いいえ
	PeopleSoft アダプター	WebSphere Adapter for PeopleSoft Enterprise と情報交換を行うサービスを作成し、このサービスにアクセスします。	いいえ
	SAP アダプター	SAP サーバーと情報交換を行うサービスを作成し、このサービスにアクセスします。	いいえ
	Siebel アダプター	Siebel Business Application Server と情報交換を行うサービスを作成し、このサービスにアクセスします。	いいえ
	WebSphere Adapter Toolkit	JCA リソース・アダプターの作成を支援するための開発ツール、ライブラリー、およびサンプル・コードを提供します。	いいえ
> Windows モニター・モデル・エディター		モニター・モデルの作成に役立つウィザードおよびライブラリーを提供します。モニター・モデル・エディターは、IBM Integration Designer 環境にインストールされます。	はい

表 1. インストールすることを選択できる IBM Integration Designer のフィーチャー (続き)

フィーチャー・グループ	フィーチャー	説明	デフォルトでの選択
クライアント開発ツール		多くのアプリケーションには、利用者またはスタッフがデータを入力するためのクライアント・インターフェースが必要です。このツール・グループは、アプリケーション用のカスタマイズされたクライアントを作成できるように提供されます。	いいえ
	Web 開発ツール	JavaServer Faces (JSF)、JavaServer Pages (JSP)、サーブレット、および HTML を使用して Web 2.0 および Java EE Web アプリケーションを作成するためのツールを提供します。また、Java EE Web アプリケーションを開発するための Apache Struts フレームワークも提供します。	いいえ
	WebSphere Portal Server およびツール	ポータル・アプリケーションを作成、カスタマイズ、テスト、デバッグ、およびデプロイするためのツールを提供します。ポータル開発ツールは、IBM WebSphere Portal バージョン 6.0 および 6.1、またはバージョン 7.0 をサポートします。	いいえ
		WebSphere Portal Server バージョン 6.1 開発ツール	いいえ
		WebSphere Application Server バージョン 7.0 上の WebSphere Portal Server バージョン 6.1 開発ツール	いいえ
	WebSphere Portal Server Beta 開発ツール	いいえ	
ライフ・サイクル統合クライアント		アセット・リポジトリを提供し、IBM Rational Team Unifying Platform 用の統合およびクライアント・プラグインを提供します。	いいえ
	アセット・リポジトリ・クライアント	アセット・リポジトリ・クライアントは、ビジネス・プロセス・マネージメント (BPM) の成果物を保管および共有するための、中央のアクセス可能な場所です。アセット・リポジトリ・クライアントが接続できるよう、IBM Rational Asset Manager がサーバーにインストールおよび構成されている必要があります。	いいえ
	Rational ClearCase® SCM アダプター	IBM Rational ClearCase SCM および ClearCase MVFS プラグインを提供します。これらは、ClearCase VOB (Versioned Object Base) およびビュー・サーバーもインストールされている場合に、スナップショット・ビューおよび動的ビューを使用して、ClearCase VOB 内のソフトウェア成果物のバージョン管理を可能にします。	いいえ
その他の開発ツール		テーブル、ビュー、およびフィルターを処理するためのリレーショナル・データベース・ツールを提供します。これらのツールを使用すると、リバース・エンジニアリング・データベース・テーブルによって、あるいは DDL スクリプトを使用して、物理データベース・モデルを作成できます。さらに、これらのツールを使用して、SQL ステートメント、DB2 ルーチン (ストアド・プロシージャやユーザー定義関数など)、さまざまなタイプのファイルを作成することもできます。また、Java クラス、エンタープライズ Bean、その他のコード・エレメントおよび成果物を表すために使用できるグラフィカル編集環境も提供します。	いいえ

## 関連タスク

11 ページの『IBM Installation Manager によるインストール』

Installation Manager を使用して IBM Integration Designer を対話的にインストールできます。

## インストール・ログ・ファイル

インストール・ログ・ファイルを使用して、インストール・セッションの結果を検査することができます。

詳しい分析については、Installation Manager のデータ域内に生成されたログを調べることができます。これらのログは、以下で入手できます。

 Windows C:¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥IBM¥Installation Manager¥logs または

 Windows C:¥ProgramData¥IBM¥Installation Manager¥logs

 Linux /var/ibm/InstallationManager/logs

### 関連タスク

11 ページの『IBM Installation Manager によるインストール』  
Installation Manager を使用して IBM Integration Designer を対話式にインストール  
できます。

---

## IBM Forms ソフトウェアのインストール

IBM Forms ソフトウェアは、IBM Integration Designer に含まれており、オプションでインストールできます。

IBM Integration Designer にバンドルされている IBM Forms ソフトウェアには、以下のものが含まれます。

- IBM Forms Designer 4.0.0.1 - IBM Integration Designer のインストールの一部としてインストールできるフィーチャー (Windows のみ)。
  - IBM Forms Viewer 4.0 - 製品ランチパッドからインストールできる (Windows のみ) オプションの追加製品。
  - IBM Forms Server 4.0 - 製品ランチパッドからインストールできる、IBM Forms Server API および IBM Forms Server - Webform Server から構成される、オプションの追加製品。
1. ランチパッドから、**IBM Integration Designer for IBM Business Process Manager Advanced - Process Server** または **IBM Integration Designer for IBM Business Monitor** のいずれかのインストールを選択します。
  2.  Windows Installation Manager の最初の「パッケージのインストール」ページで、「**IBM Forms Designer**」を選択します。
  3. インストール・プロセスを続行します。  Windows 「フィーチャー」パネルで、IBM Forms Designer が選択済みであることが表示されます。この段階で、この選択をクリアすることはできません。 IBM Forms Designer をインストールしないと決定した場合、最初の Installation Manager のパネルに戻り、パネルのチェック・ボックスをクリアしてから「フィーチャー」パネルに戻ります。 IBM Forms は選択されなくなります。
  4. オプション: 「フィーチャー」ページで、 **IBM Business Process Manager Advanced - Process Server** または **Business Monitor Server** を展開し、1 つ以上のスタンドアロン開発プロファイルを選択します。これらのプロファイルはインストール時に作成され、テスト環境が直ちに使用可能になります。
  5. 表示される指示に従って、インストールを完了します。 詳しくは、『IBM Installation Manager によるインストール』を参照してください。

6. IBM Forms ソフトウェアを個々の圧縮ファイルとしてダウンロードした場合は、次の情報に従い解凍を行います。それ以外の場合は、次のステップに進みません。
  - a. 以下のフォルダーを作成し、該当する圧縮ファイルをその中に解凍します。  
*image\_directory* は、IBM Integration Designer V7.5 の解凍したインストール・イメージが含まれるフォルダーです。

Windows では、IBM Forms Viewer または IBM Forms Server のいずれかをインストールできます。Linux では、IBM Forms Server のみインストールできます。

- IBM Forms Viewer:

 `¥image_directory¥forms_viewer¥`

- IBM Forms Server - API:

 `¥image_directory¥forms_server¥`

 `/image_directory/forms_server/`

7. IBM Integration Designer をインストールしたら、製品ランチパッドで、左側のナビゲーションで「オプション製品のインストール (Optional Products Installation)」を選択します。
8.  IBM Forms Viewer をインストールするには、「**Install IBM Forms Viewer 4.0**」を選択し、画面に表示される指示に従います。IBM Forms Viewer は、フォームを開き、入力し、保存するための、単一のインターフェースをユーザーに提供します。
9. IBM Forms Server API および IBM Forms Server - Webform Server をインストールするには、ランチパッドで「**IBM Forms Server 4.0 のインストール (Install IBM Forms Server 4.0)**」を選択し、画面に表示される指示に従います。IBM Forms Server のインストールについて詳しくは、IBM Forms の製品資料を参照してください。

既存の IBM IBM Integration Designer パッケージへのインストールで、IBM Forms インストール・ウィザードに表示されるデフォルトのインストール・ディレクトリを使用しない場合は、IBM Integration Designer パッケージをインストールする有効なインストール・ディレクトリが選択されていることを確認してください。

パッケージのインストール・ディレクトリは、共用リソースをインストールするディレクトリとは異なることに注意してください。例えば、共用リソースはデフォルトで以下の場所にインストールされます。

-  `C:¥IBM¥SDPShared¥` (管理ユーザーによるインストール)
-  `user_home¥IBM¥SDPShared¥` (管理者以外のユーザーによるインストール)
-  `/opt/IBM/SDPShared/` (管理ユーザーによるインストール)
-  `user_home/IBM/SDPShared/` (管理者以外のユーザーによるインストール)

**重要:** このディレクトリを追加のソフトウェア製品のインストール先として選択しないでください。

IBM Integration Designer をインストールし、IBM Forms Designer のインストールを選択しなかった場合、以下のトピック 35 ページの『IBM Integration Designer の更新』の説明に従って、後の段階で IBM Forms Designer をインストールすることができます。

### 関連タスク



IBM Forms 製品資料

11 ページの『IBM Installation Manager によるインストール』  
Installation Manager を使用して IBM Integration Designer を対話式にインストール  
できます。

---

## サイレント・インストール

IBM Integration Designer 製品パッケージをサイレント・インストール・モードでインストールできます。サイレント・モードでインストールするときは、ユーザー・インターフェースは使用できません。代わりに、製品をインストールする応答ファイルを使用するコマンドを実行します。

IBM Integration Designer をインストールする前に、製品のシステム要件を確認してください。

オペレーティング・システムとソフトウェアの前提条件レベルは特に重要です。インストール・プロセスでは前提条件となるオペレーティング・システム・パッチが自動的に検査されますが、前提条件をまだ確認していない場合は確認してください。このトピックには、サポートされているオペレーティング・システム、およびオペレーティング・システムを準拠させるためにインストールする必要があるオペレーティング・システムのフィックスおよびパッチがすべて記載されています。さらに、すべての前提ソフトウェアの必要レベルも記載されています。

**Windows** **重要:** IBM Integration Designer を Windows 7、Windows Vista、または Windows Server 2008 上でインストールまたは実行するには、サイレント・インストール・コマンドを実行するコマンド・プロンプトを右クリックし、「管理者として実行」を選択して、ご使用の Microsoft Windows ユーザー・アカウントの特権を昇格する必要があります。これは、管理ユーザーと非管理ユーザーの両方に必須です。

**重要:** 非管理ユーザーまたは非 root ユーザーとして IBM Integration Designer をそのテスト環境と一緒にインストールし、さらにテスト環境をインストールする場合は、製品のインストールを開始する前に DB2 をインストールする必要があります。

サイレント・インストールでは、以下の一部またはすべてのタスクが実行されます。

- Installation Manager がまだインストールされていない場合はインストールし、既にインストールされている場合は適切なレベルに更新します。
- 作成された応答ファイルを使用して、必要な基本製品と IBM Integration Designer をインストールします。

IBM Integration Designer をサイレント・インストールするには、以下のステップを実行します。

1. インストール前にライセンス条項を読んで同意します。-acceptLicense を応答ファイルに追加することは、すべてのライセンス条項に同意したことを意味します。
2. 必要な基本製品と IBM Integration Designer をインストールする応答ファイルを作成します。以下のディレクトリーにあるサンプル応答ファイルのいずれかをコピーし、独自の応答ファイルを作成します。

IBM Integration Designer とテスト環境の両方をインストールする場合:  
`dvd_root/disk1/responsefiles/responsefile.install.iid.testenv.xml`

IBM Integration Designer のみをインストールする場合: `dvd_root/disk1/responsefiles/responsefile.install.iid.xml`

3. 応答ファイル・テンプレートのテキストの指示に従ってパラメーターを変更し、独自の応答ファイルを作成します。応答ファイルは、Installation Manager でアクションを記録することによっても作成できます。応答ファイルを記録すると、Installation Manager で行った選択が XML ファイルに保管されます。Installation Manager をサイレント・モードで実行すると、Installation Manager は XML 応答ファイル内のデータを使用してインストールを実行します。
4. 次のコマンドを実行します。

IBM Integration Designer およびテスト環境をインストールするには、以下を実行します。 **Windows**

```
extract_location%disk1%IM_win32%installc.exe -acceptLicense input  
..%responsefiles%responsefile.install.iid.testenv.xml -log silent.log
```

**Linux**

```
extract_location/disk1/IM_linux/installc -acceptLicense input  
../responsefiles/responsefile.install.iid.testenv.xml -log silent.log
```

IBM Integration Designer のみをインストールする場合: **Windows**

```
extract_location%disk1%IM_win32%installc -acceptLicense input  
..%responsefiles%responsefile.install.iid.xml -log silent.log
```

**Linux**

```
extract_location/disk1/IM_linux/installc -acceptLicense input  
../responsefiles/responsefile.install.iid.xml -log silent.log
```

Installation Manager により、必要なすべての前提条件および IBM Integration Designer がインストールされ、指定したディレクトリーにログ・ファイルが書き出されます。

## 関連タスク

 [Installation Manager によるサイレント・インストール](#)

 [Installation Manager による応答ファイルの記録](#)

## 関連資料

 [IBM Integration Designer のシステム要件](#)

---

## IBM Installation Manager の使用

このセクションでは、IBM Installation Manager に関連した一般的なタスクについて説明します。詳しくは、Installation Manager インフォメーション・センターを参照してください。

### 関連情報

 [IBM Installation Manager インフォメーション・センター](#)

## Installation Manager のインストール (Windows の場合)

ランチパッド・プログラムから製品のインストールを開始すると、IBM Installation Manager がワークステーションにインストールされていない場合は、インストールが自動的に実行されます。(このプロセスについて詳しくは、8 ページの『製品ランチパッドからのインストール』を参照してください。) その他の場合は、Installation Manager のインストールを手動で開始する必要があります。

Installation Manager を手動でインストールするには、以下の手順に従います。

1. インストール・イメージ内の IM\_win32 フォルダから、install.exe を実行します。
2. 「パッケージのインストール」ページで「次へ」をクリックします。
3. 「ご使用条件」ページで使用条件を確認し、「使用条件の条項に同意します」を選択して条件に同意します。「次へ」をクリックします。
4. 「宛先フォルダ (Destination Folder)」ページでは、必要に応じて「参照」ボタンをクリックし、インストール・ロケーションを変更します。「次へ」をクリックします。
5. 「要約」ページで「インストール」をクリックします。インストール・プロセスが完了すると、プロセス正常終了の確認メッセージが表示されます。
6. 「終了」をクリックします。IBM Installation Manager が開きます。

## Installation Manager のインストール (Linux の場合)

ランチパッド・プログラムから製品のインストールを開始すると、IBM Installation Manager がワークステーションにインストールされていない場合は、インストールが自動的に実行されます。このプロセスについて詳しくは、8 ページの『製品ランチパッドからのインストール』を参照してください。

Installation Manager を手動でインストールするには、以下の手順に従います。

1. root ユーザー特権でターミナル・ウィンドウを開きます。
2. インストール・イメージ内の IM\_linux フォルダから、install を実行します。
3. 「パッケージのインストール」画面で「次へ」をクリックします。
4. 「ご使用条件」ページで使用条件を確認し、「使用条件の条項に同意します」を選択して条件に同意します。「次へ」をクリックします。
5. 必要な場合は、インストール・ディレクトリーのロケーションを編集します。「次へ」をクリックします。
6. 情報の要約ページで「インストール」をクリックします。インストール・プロセスが完了すると、プロセス正常終了の確認メッセージが表示されます。
7. 「終了」をクリックします。ランチパッド・プログラムから製品のインストールを開始すると、IBM Installation Manager がワークステーションにインストールされていない場合は、インストールが自動的に実行されます。

## Installation Manager の開始 (Windows の場合)

ランチパッド・プログラムから製品のインストールを開始すると、IBM Installation Manager がワークステーションにインストールされていない場合は、インストールが自動的に実行されます。この自動インストールでは、Installation Manager は、リポジトリ設定が構成され、IBM Integration Designer パッケージが選択された状態で開始します。Installation Manager を直接開始する場合は、リポジトリ設定と製品パッケージの選択を手動で行う必要があります。詳しくは、29 ページの『Installation Manager でのリポジトリ設定』を参照してください。

Installation Manager を手動で開始するには、以下の手順に従います。

1. タスクバーから「スタート」メニューを開きます。
2. 「すべてのプログラム」 > 「IBM Installation Manager」 > 「IBM Installation Manager」を選択します。

## Installation Manager の開始 (Linux の場合)

ランチパッド・プログラムから製品のインストールを開始すると、IBM Installation Manager がワークステーションにインストールされていない場合は、インストールが自動的に実行されます。この自動インストールでは、Installation Manager は、リポジトリ設定が構成され、IBM Integration Designer パッケージが選択された状態で開始します。Installation Manager を直接開始する場合は、リポジトリ設定と製品パッケージの選択を手動で行う必要があります。詳しくは、29 ページの『Installation Manager でのリポジトリ設定』を参照してください。

Installation Manager を手動で開始するには、以下の手順に従います。

1. root ユーザー特権でターミナル・ウィンドウを開きます。
2. Installation Manager のインストール・ディレクトリー (デフォルトでは、root ユーザーの場合は /opt/IBM/InstallationManager/eclipse、非 root ユーザーの場合は user\_home/IBM/InstallationManager/eclipse) に移動し、IBMIM を実行します。

## Installation Manager のアンインストール (Windows の場合)

Installation Manager を手動でアンインストールするには、以下の手順に従います。

1. 「スタート」 > 「設定」 > 「コントロール・パネル」をクリックし、「プログラムの追加と削除」をダブルクリックします。
2. IBM Installation Manager のエントリーを選択し、「削除」をクリックします。

## Installation Manager のアンインストール (Linux の場合)

IBM Installation Manager は、使用している Linux バージョンに付属のパッケージ管理ツールを使用してアンインストールする必要があります。

Linux で Installation Manager を手動でアンインストールするには、以下のいずれかの方法を使用します。

- メニューで、「アプリケーション」 > 「システム・ツール (System Tools)」をクリックします。「IBM Installation Manager」 > 「IBM Installation Manager のアンインストール (Uninstall IBM Installation Manager)」を選択します。
- root ユーザー特権でターミナル・ウィンドウを開きます。アンインストールする Installation Manager のディレクトリーに移動します。デフォルトでは、このディレクトリーは `/var/ibm/InstallationManager/uninstall` です。`./uninstall` を実行します。

## プロキシ・サーバーを介した Installation Manager の更新

プロキシ・サーバーは、ファイアウォールの後ろからリモート・サーバーに接続できるようにします。プロキシ・サーバーの設定は、Installation Manager または応答ファイルで行うことができます。プロキシ・サーバーを有効にすると、プロキシ・サーバーはすべてのサーバー通信で使用されます。Installation Manager をプロキシ・サーバー用に構成する方法については、Installation Manager インフォメーション・センターの『インターネットの設定』を参照してください。

## サイレント・モードでの Installation Manager のインストールとアンインストール

IBM Installation Manager をサイレント・モードでインストールおよびアンインストールすることができます。

### 関連情報

 [IBM Installation Manager インフォメーション・センター](#)

### Installation Manager のサイレント・インストール

Installation Manager のサイレント・インストールを実行するには、インストーラーを解凍し、`InstallerImage_platform` サブディレクトリーに移動して、以下のコマンドを実行します。

- `Windows` `installc --launcher.ini -acceptLicense silent-install.ini -log <log file path and name>. 例: installc --launcher.ini -acceptLicense silent-install.ini -log c:¥mylogfile.xml`

- **Linux** `install --launcher.ini -acceptLicense silent-install.ini -log <log file path and name>`. 例: `install --launcher.ini -acceptLicense silent-install.ini -log /root/mylogs/mylogfile.xml`

インストール後、Installation Manager または Installation Manager のインストーラーを使用して、パッケージのサイレント・インストールを行うことができます。

## Installation Manager のサイレント・アンインストール (Windows の場合)

Windows で Installation Manager のサイレント・アンインストールを行うには、以下の手順に従います。

1. コマンド行で、Installation Manager のアンインストール・ディレクトリーに移動します。デフォルトでは、これは `C:%Documents and Settings%All Users%Application Data%IBM%Installation Manager%uninstall` です。
2. 次のコマンドを入力します。 `uninstallc.exe --launcher.ini silent-uninstall.ini`

## Installation Manager のサイレント・アンインストール (Linux の場合)

その他プラットフォームで Installation Manager のサイレント・アンインストールを行うには、以下の手順に従います。

1. ターミナル・ウィンドウで、アンインストールする Installation Manager のディレクトリーに移動します。デフォルトでは、これは `/var/ibm/InstallationManager/uninstall` です。
2. 次のコマンドを実行します。 `uninstall --launcher.ini silent-uninstall.ini`

## パッケージ・グループおよび共用リソース・ディレクトリー

IBM Installation Manager を使用して IBM Integration Designer パッケージをインストールする場合は、共用リソース・ディレクトリー (Installation Manager を使用して最初にインストールする製品が IBM Integration Designer である場合) およびパッケージ・グループを選択する必要があります。

### パッケージ・グループ

インストール・プロセス中に、IBM Integration Designer パッケージのパッケージ・グループを指定する必要があります。パッケージ・グループとは、各パッケージが同じグループに属するほかのパッケージと共通のユーザー・インターフェースまたはワークベンチを共用するためのディレクトリーです。Installation Manager を使用して IBM Integration Designer パッケージをインストールするときには、新しいパッケージ・グループを作成することも、パッケージを既存のパッケージ・グループにインストールすることもできます。一部に、パッケージ・グループを共用できないパッケージがあります。この場合は、既存のパッケージ・グループを使用するオプションが使用不可になります。

複数のパッケージを一度にインストールする場合は、すべてのパッケージが同じパッケージ・グループにインストールされることに注意してください。

パッケージ・グループには自動的に名前が設定されますが、パッケージ・グループのインストール・ディレクトリーは選択できます。

IBM パッケージ化ユーティリティーを使用して次を行うことができます。

- パッケージ用の新規リポジトリーの生成
- 新規リポジトリーへのパッケージのコピー
- 必要のなくなったパッケージの削除

詳しくは、『IBM Packaging Utility』を参照してください。

製品パッケージを正常にインストールしてパッケージ・グループを作成した後は、インストール・ディレクトリーを変更できません。インストール・ディレクトリーには、そのパッケージ・グループにインストールされた IBM Integration Designer パッケージに固有のファイルとリソースが格納されます。ほかのパッケージ・グループが使用する可能性がある、製品パッケージ内の Eclipse プラグインは、共用リソース・ディレクトリー内に格納されます。

## 共用リソース・ディレクトリー

共用リソース・ディレクトリー は、1 つ以上の製品パッケージ・グループで使用できるように Eclipse プラグインを格納するディレクトリーです。

**重要:** 共用リソース・ディレクトリーは、パッケージを最初にインストールするときに、一度指定することができます。共用リソース・ディレクトリーには、最大容量のドライブを使用することをお勧めします。すべてのパッケージをアンインストールしない限り、このディレクトリーの場所は変更できません。

### 関連情報



IBM Installation Manager インフォメーション・センター

## Installation Manager でのリポジトリー設定

Installation Manager を直接開始する場合 (例えば、Web サーバー上にあるリポジトリーから開始する場合) は、Installation Manager の製品パッケージが格納されているディレクトリーの URL を指定する必要があります。指定しないと、製品パッケージをインストールできません。

デフォルトでは、Installation Manager は各ソフトウェア開発製品の組み込み URL を使用してインターネット経由でリポジトリー・サーバーに接続し、インストール可能なパッケージおよび新規フィーチャーを検索します。組織では、イントラネット・サイトを使用するためにリポジトリーをリダイレクトすることが必要な場合があります。

**注:** DVD またはローカル・インストール・イメージ以外からインストールする場合、インストール・プロセスを開始する前に、管理者からインストール・パッケージのリポジトリー URL を入手してください。

Installation Manager でリポジトリーのロケーションを追加、編集、または削除するには、以下の手順に従います。

1. Installation Manager を始動します。

2. Installation Manager の「開始」ページで、「ファイル」 > 「設定」をクリックし、次に「リポジトリ」をクリックします。「リポジトリ」ページが開き、使用可能なリポジトリ、各リポジトリのロケーション、および各リポジトリがアクセス可能かどうかが表示されます。
3. 「リポジトリ」ページで、「リポジトリの追加」をクリックします。
4. 「リポジトリの追加」ウィンドウで、リポジトリ・ロケーションの URL を入力するか、URL を参照してファイル・パスを設定します。一般に、リポジトリ・ロケーションは `image_directory/repository.config` です。ここで、`image_directory` には、インストールする製品の解凍済みインストール・イメージが入ります。
5. 「OK」をクリックします。新規の、または変更されたリポジトリ・ロケーションが表示されます。リポジトリにアクセスできない場合は、赤い x 印が「アクセス可能 (Accessible)」列に表示されます。
6. 「OK」をクリックして終了します。

注: Installation Manager がインストール済みパッケージのデフォルトのリポジトリ・ロケーションを検索するようにしたい場合は、「リポジトリ」設定ページで「インストール中および更新中にサービス・リポジトリの検索」設定を必ず選択してください。

#### 関連情報



IBM Installation Manager インフォメーション・センター

---

## IBM Integration Designer の始動

IBM Integration Designer は、デスクトップ環境またはコマンド行インターフェースから開始できます。

デスクトップ環境から IBM Integration Designer を開始するには、以下を実行します。

**Windows** 「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM」 > パッケージ・グループ名 > 「IBM Integration Designer 7.5」をクリックします。例えば、「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM」 > 「IBM Integration Designer」 > 「IBM Integration Designer 7.5」をクリックします。

**Linux** 「パッケージ・グループ名」 > 「IBM Integration Designer 7.5」をクリックすると表示されるメインメニューで、製品のショートカットを選択します。例えば、「IBM Integration Designer」 > 「IBM Integration Designer 7.5」をクリックします。

コマンド行から IBM Integration Designer を開始するには、以下を実行します。

**Linux** パッケージ・グループのインストール・ディレクトリーから `./wid.bin` コマンドを実行します。デフォルトでは、パッケージ・グループのインストール・ディレクトリーは以下のとおりです。

`/opt/IBM/IntegrationDesigner/v7.5` (管理ユーザーとしてインストールした場合)

`user_home/IBM/IntegrationDesigner/v7.5` (管理者以外のユーザーとしてインストールした場合)

**Windows** パッケージ・グループのインストール・ディレクトリーから `wid.exe` コマンドを実行します。デフォルトでは、パッケージ・グループのインストール・ディレクトリーは以下のとおりです。

`C:\IBM\IntegrationDesigner\7.5`

**注:** Windows の日時が正しく設定されていること、および BIOS の設定値と一致していることを確認してください。日時が正しく設定されていない場合、IBM Integration Designer は起動に失敗して次のエラー・メッセージが表示されます。

Exception in org.eclipse.equinox.internal.p2.reconciler.dropins.Activator.start() of bundle org.eclipse.equinox.p2.reconciler.dropins

## IBM Integration Designer 始動時の "-clean" オプションの使用

`-clean` オプションを IBM Integration Designer の始動時に使用することができます。このオプションはいくつかの機能を実行します。

IBM Integration Designer は、より高速なロードのためにすべての `plugin.xml` ファイルを単一リポジトリーにキャッシュする、Eclipse プラットフォームに基づいています。新しいプラグインをインストールする前に IBM Integration Designer を使用した場合は、一度 `-clean` オプションを指定して IBM Integration Designer を始動する必要があります。

1. コマンド行で、IBM Integration Designer をインストールしたパッケージ・グループのインストール・ディレクトリーに移動します。
2. `-clean` オプションを指定して、IBM Integration Designer を始動するコマンドを実行します。

**Windows** `wid.exe -clean`

**Linux** `./wid.bin -clean`

この `-clean` オプションは、IBM Integration Designer に Eclipse リポジトリーの再作成を強制します。これは、`plugins` フォルダーに解凍することで、Eclipse にインストールされたものすべてに適用されます。このオプションはまた、以下を行います。

- マニフェスト・ファイルを除去して再生成します。
- 新たに作成されたマニフェスト・ファイルからキャッシュされたバイナリーを除去して再生成します。
- JXE 情報を除去して再生成します。
- ランタイム・プラグイン・レジストリーを除去して再生成します。

さらに、`-clean` が使用されたときに何が行われるかは、構成ディレクトリーにリストされた各プラグインに応じて異なります。

暫定修正を適用後、`-clean` オプションを使用して IBM Integration Designer を始動するのは、良い方法です。これにより、適用された修正の変更内容を反映してプラ

グイン・レジストリーが再生成されます。-clean を指定した実行はプラグイン・レジストリーの再生成でかなりの時間を要するため、これは暫定修正の適用後に一度だけ行う必要があります。

---

## Citrix プレゼンテーション・サーバーへのインストール

Citrix プレゼンテーション・サーバーに IBM Integration Designer をインストールして実行できます。このようにすると、複数のユーザーが Citrix プレゼンテーション・サーバー・クライアントからリモート接続できます。

IBM Integration Designer を Citrix プレゼンテーション・サーバーにインストールして実行するには、次の指示に従います。

**注:** ここの説明全体にわたり、「インストール・ユーザー」と「製品インストール・ユーザー」という用語は、IBM Integration Designer をインストールしたユーザー ID のことを指しています。

1. サーバーに IBM Integration Designer をインストールする場合、管理者権限のあるユーザーとしてログオンする必要があります。
2. インストール後、インストール・ディレクトリーが読み取り専用になっていることを確認します。これは、共有インストール・ディレクトリーではなく、製品ディレクトリーです。このステップにより、構成情報がホーム・ディレクトリーに必ず書き込まれるようになります。この措置を行わないと、すべてのユーザーは構成領域として同じ場所を使用することになります。これはサポートされていません。

**注:** クライアント・ユーザーに、<installation\_root>%runtimes%bi\_v75\_stub% ディレクトリーの書き込み権限が与えられていることを確認します。書き込み権限がない場合、統合テスト環境用サーバーの状況を検出できません。

3. クライアントから IBM Integration Designer を起動すると、ユーザーが指定したディレクトリー内にワークスペースが作成されます。
4. テスト環境でサーバーを使用するには、root 以外の各ユーザーに対してプロファイルが必要です。製品のインストール・ユーザー (root または管理者の場合と非 root ユーザーの場合がある) は、該当する IBM Business Process Manager のファイルとディレクトリーへの書き込み権限を非 root ユーザーに付与することができます。この権限付与を行うと、非 root ユーザーがプロファイルを作成できるようになります。また、製品インストール者は、プロファイルを作成する権限のあるユーザーのグループを作成したり、プロファイルを作成する権限を個々のユーザーに与えたりすることができます。プロファイルを作成する権限のあるグループを作成する方法を、次のタスク例に示します。

## Citrix プレゼンテーション・サーバーの構成

インストール者は、次のステップを実行することで、「profilers」グループを作成し、プロファイルを作成するための適切な権限をそのグループに与えることができます。

1. IBM Integration Designer システムに、製品インストール者 (製品インストール者には、root/管理者ユーザーまたは root 以外のユーザーがなることが可能) としてログオンします。

2. オペレーティング・システムのコマンドを使用して、以下を実行します。
  - a. プロファイルを作成できるすべてのユーザーを所属させる、「profilers」という名前のグループを作成します。
  - b. プロファイルを作成できる、user1 という名前のユーザーを作成します。
  - c. ユーザーの product\_installer および user1 を profilers グループに追加します。
3. Linux UNIX ログオフし、インストーラー者として再度ログオンし、新しいグループを作成します。
4. 製品インストーラー者として、オペレーティング・システムのツールを使用してディレクトリーおよびファイルの権限を変更します。

- a. Linux UNIX 次の例では、変数 \$WASHOME は、IBM Business Process Manager の root インストール・ディレクトリーである `root_installation_directoryopt/ibm/BPM/v7.5` と仮定します。

```
export WASHOME=opt/ibm/BPM/v7.5
echo $WASHOME
echo "Performing chgrp/chmod per WAS directions..."
chgrp profilers $WASHOME/logs/manageprofiles
chmod g+wr $WASHOME/logs/manageprofiles
chgrp profilers $WASHOME/properties
chmod g+wr $WASHOME/properties
chgrp profilers $WASHOME/properties/fsdb
chmod g+wr $WASHOME/properties/fsdb
chgrp profilers $WASHOME/properties/profileRegistry.xml
chmod g+wr $WASHOME/properties/profileRegistry.xml
chgrp -R profilers $WASHOME/profileTemplates
```

- b. HP-LUX 次の追加コマンドを実行します。profile\_template\_name はデフォルト、dmgr、または managed です。

```
chmod -R g+wr $WASHOME/profileTemplates/profile_template_name/documents
```

プロファイル作成時にファイルがプロファイル・ディレクトリーにコピーされても、それらのファイルの所有権は保持されます。プロファイル・ディレクトリーへの書き込み権限を与えたのは、プロファイル・ディレクトリーにコピーされたファイルを、プロファイル作成プロセスの一部として変更できるようにするためです。プロファイル作成の開始前から profileTemplate ディレクトリー構造内に存在しているファイルは、プロファイル作成時には変更されません。

- c. Linux 次の追加コマンドを実行します。

```
chgrp profilers $WASHOME/properties/Profiles.menu
chmod g+wr $WASHOME/properties/Profiles.menu
```

- d. Windows 次の例では、変数 \$WASHOME は、IBM Business Process Manager の root インストール・ディレクトリーである `C:\IBM\ProcServer\7.5` と仮定します。Windows の文書の指示に従い、次のディレクトリーおよびファイルの読み取り権限および書き込み権限を profilers グループに与えます。

```
@WASHOME\logs\manageprofiles
@WASHOME\properties
@WASHOME\properties\fsdb
@WASHOME\properties\profileRegistry.xml
```

非 root ユーザーに許可エラーが発生した場合は、追加ファイルの許可を変更することが必要になる場合があります。例えば、製品インストール・ユーザーが非 root ユーザーにプロファイルの削除の権限を与える場合、製品インストール・ユーザーは以下のファイルを削除することが必要になる場合があります。

- e.    
install\_root/properties/profileRegistry.xml\_LOCK
- f.   
install\_root¥properties¥profileRegistry.xml\_LOCK

このファイルを削除する権限を非 root ユーザーに付与するには、そのユーザーにこのファイルへの書き込み権限を付与します。それでも非 root ユーザーがこのプロファイルを削除できない場合は、製品インストール・ユーザーがこのプロファイルを削除することができます。

インストーラーは、profilers グループを作成し、特定のディレクトリーおよびファイルの適切な権限をそのグループに与え、プロファイルを作成できるようにしました。非 root ユーザーがプロファイルの作成のために書き込む必要がある、IBM Integration Designer のインストール・ルートに存在するディレクトリーとファイルはこれらだけです。

---

## インストール済み環境の変更

IBM Installation Manager の「パッケージの変更」ウィザードを使用すると、インストール済み製品パッケージの言語やフィーチャーの選択項目を変更できます。

**注:** 変更を行う前に、Installation Manager を使用してインストールしたすべてのプログラムを閉じます。

インストール済み製品パッケージを変更するには、以下の手順に従います。

1. Installation Manager の「開始」ページで、「変更」をクリックします。
2. 「パッケージの変更」ウィザードで、IBM Integration Designer 製品パッケージを選択し、「次へ」をクリックします。
3. 「変更」ページの「言語」で、パッケージ・グループの言語を選択し、「次へ」をクリックします。パッケージのユーザー・インターフェースおよび資料が、対応する各国語の翻訳でインストールされます。選択した言語は、このパッケージ・グループにインストールするすべてのパッケージに適用されます。
4. 「フィーチャー」ページで、インストールするパッケージ・フィーチャーを選択し、除去するフィーチャーを選択解除します。
  - a. フィーチャーについて詳しくは、フィーチャーをクリックし、「詳細」の要旨を参照してください。
  - b. フィーチャー間の依存関係を表示するには、「依存関係の表示」を選択します。フィーチャーをクリックすると、そのフィーチャーに依存しているフィーチャーおよび従属しているフィーチャーが、「依存関係」ウィンドウに表示されます。パッケージ内のフィーチャーを選択または除外すると、

Installation Manager によって自動的に他のフィーチャーとの依存関係が適用され、更新されたダウンロード・サイズとインストールのディスク・スペース要件が表示されます。

5. フィーチャーの選択が終了したら、「次へ」をクリックします。
6. 「要約」ページでは、インストール・パッケージを変更する前に選択項目を確認し、「変更」をクリックします。
7. オプション: 変更プロセスが完了したら、「ログ・ファイルの表示」をクリックして完全なログを表示します。

---

## IBM Integration Designer の更新

IBM Installation Manager を使用してインストールしたパッケージの更新をインストールできます。

デフォルトでは、リポジトリ設定がローカル更新サイトをポイントしている場合を除いて、インターネットにアクセスできる必要があります。

インストール済みのパッケージごとに、デフォルトの IBM 更新リポジトリのロケーションが組み込まれています。Installation Manager で、インストール済みパッケージの IBM 更新リポジトリ・ロケーションを検索するには、「リポジトリ」設定ページにある「インストールおよび更新時にサービス・リポジトリを検索 (Search service repositories during installation and updates)」設定が選択されている必要があります。この設定はデフォルトで選択されています。

詳しくは、Installation Manager のヘルプを参照してください。

**注:** 更新を行う前に、Installation Manager を使用してインストールしたプログラムをすべて閉じてください。

製品パッケージの更新を検索してインストールするには、以下の手順に従います。

1. Installation Manager の「開始」ページで、「更新」をクリックします。

 「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM」 > パッケージ・グループ名 > 「更新」をクリックすることもできます。例えば、「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM」 > 「IBM Integration Designer」 > 「更新」をクリックします。

2. IBM Installation Manager がシステム上に検出されない場合、または古いバージョンがインストールされている場合は、最新リリースのインストールに進む必要があります。ウィザードに表示される画面の指示に従って、IBM Installation Manager のインストールを完了します。
3. 「パッケージの更新 (Update Packages)」ウィザードで、更新する IBM Integration Designer 製品パッケージを選択するか、「すべて更新」を選択して「次へ」をクリックします。Installation Manager は、IBM Integration Designer のリポジトリおよび事前定義された更新サイトで更新を検索します。進行標識で、検索が実行されていることが示されます。
4. パッケージの更新が検出されると、「パッケージの更新 (Update Packages)」ページの「更新」リスト内の対応するパッケージの下に、更新が表示されます。

推奨される更新のみがデフォルトで表示されます。「すべて表示」をクリックすると、使用可能なパッケージに対して見つかったすべての更新が表示されません。

- a. 特定の更新の詳細を知るには、その更新をクリックして、「詳細」の下の説明を検討してください。
  - b. 更新に関する追加情報がある場合は、説明テキストの最後に「詳細」リンクが表示されます。リンクをクリックすると、情報がブラウザーに表示されます。更新をインストールする前に、この情報を検討してください。
5. インストールする更新を選択するか、「推奨を選択」をクリックしてデフォルトの選択に戻します。依存関係がある更新は、自動的に一緒に選択またはクリアされます。
  6. 「次へ」をクリックして先に進みます。
  7. 「ライセンス」ページで、選択した更新のご使用条件を読みます。「ライセンス」ページの左側に、選択した更新のライセンスのリストが表示されます。各項目をクリックしてご使用条件のテキストを表示します。
    - a. すべてのご使用条件に同意する場合は、「使用条件の条項に同意します」をクリックします。
    - b. 「次へ」をクリックして先に進みます。
  8. 更新をインストールする前に、「要約」ページで、行った選択を検討します。
    - a. これまでのページで行った選択を変更するには、「戻る」をクリックして、変更を行います。
    - b. 満足できる状態になったら、「更新」をクリックし、更新をダウンロードしてインストールします。インストールの完了のパーセンテージが進行標識で示されます。
- 注:** 更新処理の途中で、Installation Manager は、パッケージの基本バージョンのリポジトリのロケーションを尋ねるプロンプトを出すことがあります。DVD やその他のメディアから製品をインストールした場合は、更新フィーチャーの使用時にその DVD やその他のメディアが使用可能でなければなりません。
9. オプション: 更新プロセスが完了すると、プロセス正常終了の確認メッセージが、ページの上部に表示されます。「ログ・ファイルの表示」をクリックして、現行セッションのログ・ファイルを新しいウィンドウに表示します。続行するにはインストール・ログのウィンドウを閉じる必要があります。
  10. 「終了」をクリックして、ウィザードを閉じます。

---

## IBM Integration Designer のアンインストール

Installation Manager の「アンインストール」オプションを使用すると、単一のインストール・ロケーションからパッケージをアンインストールすることができます。すべてのインストール・ロケーションから、すべてのインストール済みパッケージをアンインストールすることもできます。

パッケージをアンインストールするには、製品パッケージのインストールに使用したのと同じユーザー・アカウントを使用して、システムにログインする必要があります。

ます。別のパッケージが依存しているパッケージは、その依存パッケージでもアンインストールが選択されている場合のみアンインストールできます。

1. Installation Manager を使用してインストールしたプログラムを閉じます。
2. 稼働中のサーバーをすべて停止します。
3. Installation Manager の「開始」ページで、「更新」をクリックします。   
「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM」 > 「パッケージ・グループ名」 > 「アンインストール」をクリックします。例えば、「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM」 > 「IBM Integration Designer」 > 「アンインストール」をクリックします。
4. 「パッケージのアンインストール」ページで、IBM Integration Designer および関連するパッケージを選択し、「次へ」をクリックします。  前のステップで「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM > IBM Integration Designer」 > 「アンインストール」を選択した場合、「パッケージのアンインストール」ページでは、IBM Integration Designer がアンインストール対象として事前選択されています。
5. 「要約」ページで、アンインストールされるパッケージのリストを確認し、「アンインストール」をクリックします。 アンインストールが終了すると、「完了」ページが開きます。
6. 「終了」をクリックしてウィザードを終了します。

IBM Integration Designer がアンインストールされると、IBM Integration Designer に拡張されたすべてのプロファイルが除去されます (IBM Integration Designer に拡張されたあらゆる WebSphere Application Server プロファイルも含まれます)。

## のサイレント・アンインストール

IBM Integration Designer 製品パッケージをサイレント・アンインストール・モードでインストールできます。サイレント・モードでアンインストールするときは、ユーザー・インターフェースは使用できません。代わりに、製品をインストールする応答ファイルを使用するコマンドを実行します。

Installation Manager を使用してインストールしたプログラムをすべて閉じます。

アンインストールするには、インストール時に使用したのと同じユーザー・アカウントを使用して、システムにログインする必要があります。

IBM Integration Designer をサイレント・アンインストールするには、以下のステップを実行します。

1. 必要な基本製品と IBM Integration Designer をアンインストールする応答ファイルを作成します。以下のディレクトリーにあるサンプル応答ファイルのいずれかをコピーし、独自の応答ファイルを作成します。

IBM Integration Designer とテスト環境の両方をアンインストールする場合:  
`dvd_root/disk1/responsefiles/responsefile.uninstall.iid.testenv.xml`

IBM Integration Designer のみをアンインストールする場合:  
`dvd_root/disk1/responsefiles/responsefile.uninstall.iid.xml`

2. 応答ファイル・テンプレートのテキストの指示に従ってパラメーターを変更し、独自の応答ファイルを作成します。 応答ファイルは、Installation Manager でア

クシオンを記録することによっても作成できます。応答ファイルを記録すると、Installation Manager で行った選択が XML ファイルに保管されます。Installation Manager をサイレント・モードで実行すると、Installation Manager は XML 応答ファイル内のデータを使用してインストールを実行します。

3. 以下のコマンドを実行します。 IBM Integration Designer およびテスト環境の両方をアンインストールする場合:

> Windows

```
IM_location%tools%imcl.exe input extract_location%disk1%responsefiles%  
responsefile.uninstall.iid.testenv.xml -log silentuninstall.log
```

> Linux

```
IM_location/tools/imcl input extract_location/disk1/responsefiles/  
responsefile.uninstall.iid.testenv.xml -log silentuninstall.log
```

IBM Integration Designer のみをアンインストールする場合: > Windows

```
IM_location%tools%imcl.exe input extract_location%disk1%responsefiles%  
responsefile.uninstall.iid.xml -log silentuninstall.log
```

> Linux

```
IM_location/tools/imcl input extract_location/disk1/responsefiles/  
responsefile.uninstall.iid.xml -log silentuninstall.log
```

Installation Manager により IBM Integration Designer がアンインストールされ、指定したディレクトリーにログ・ファイルが書き出されます。

---

## 更新のロールバック

「パッケージのロールバック」ウィザードを使用すると、パッケージに対する更新を削除し、前のバージョンに戻すことができます。

ロールバック・プロセス中は、Installation Manager から前バージョンのパッケージのファイルにアクセスする必要があります。デフォルトでは、これらのファイルはパッケージをインストールしたときにシステムに格納されています。ワークステーション上にファイルがない場合は、Installation Manager の設定で (「ファイル」> 「設定」> 「リポジトリー」)、前バージョンの製品をインストールしたときのインストール元リポジトリー・ロケーションを指定する必要があります。DVD やその他のメディアから製品をインストールした場合は、ロールバック・フィーチャーの使用時にその DVD またはメディアが使用可能でなければなりません。

製品パッケージに更新を適用した後で、更新を削除して製品を前のバージョンに戻す場合は、ロールバック・フィーチャーを使用します。ロールバック・フィーチャーを使用すると、Installation Manager によって、更新されたリソースがアンインストールされ、前バージョンのリソースが再インストールされます。一度に 1 つのバージョン・レベルのみをロールバックできます。

**注:** スタンドアロン・サーバーに対してロールバック・プロセスを実行すると、WebSphere テスト環境が使用不可になる可能性があります。ロールバック・プロセスの完了後に、テスト環境プロファイルをリセットする必要があります。テスト環

境プロファイルのリセット方法については、『デフォルトのサーバー・プロファイルの作成またはリセット』を参照してください。

ロールバック・ウィザードの使用について詳しくは、Installation Manager のヘルプを参照してください。

更新したパッケージをロールバックするには、以下の手順に従います。

1. Installation Manager の「開始」ページで、「ロールバック」をクリックして、ロールバック・ウィザードを開始します。
2. 「パッケージのロールバック」リストから、ロールバックするパッケージを選択します。
3. 画面の指示に従ってウィザードの手順を完了します。

---

## インストール・プロセスのトラブルシューティング

IBM Integration Designer のインストールまたは削除時に発生する可能性のある問題がいくつかあります。

この表には、問題、説明および解決策がリストされています。

表 2. インストールで発生する可能性のある問題。

症状	解決策
<p>IBM Integration Designer のインストール中に例外がスローされます。 Installation Manager のログ・ファイルに、以下のエラーが含まれています。</p> <pre>java.io.Exception: CreateProcess: "C:¥...¥security.update.bat" error = 5</pre> <p>このエラーは、ファイル・アクセス権に問題があることを示しています。この問題は、インストール・プロセスを妨げているアンチウイルス・ソフトウェアが原因となっている場合があります。</p>	<p>このシステムでインストールを行うための十分な許可を持っていることを確認し、IBM Integration Designer のインストール中はアンチウイルス・ソフトウェアを無効にしてください。</p>

表 2. インストールで発生する可能性のある問題。(続き)

症状	解決策
<p>テスト・サーバーが「サーバー」ビューに表示されない。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プロファイルが作成されたことを確認します。デフォルトのプロファイル・ディレクトリーは、以下のいずれかのディレクトリーです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Windows <code>C:\Program Files\IBM\WebSphere\AppServer\profiles\</code></li> <li>Windows <code>C:\Program Files\WebSphere\AppServer\profiles\</code></li> <li>Linux <code>/opt/IBM/WebSphere/AppServer/profiles/</code></li> <li>Linux <code>/opt/IBM/WebSphere/AppServer/profiles/</code></li> </ul> </li> <li>2. コマンド・プロンプトを開き、IBM Integration Designer がインストールされているディレクトリーに移動します。以下のコマンドを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Windows <code>wid.exe -clean</code></li> <li>Linux <code>./wid.bin -clean</code></li> </ul> </li> <li>3. それでもサーバーが表示されない場合は、『テスト環境でのサーバーの作成』の説明に従って、新規サーバーを作成してください。</li> </ol>

表 2. インストールで発生する可能性のある問題。(続き)

症状	解決策
<p>再インストール時に新規プロファイルを作成できない。</p> <p>同じ場所に再インストールするか、アンインストールに失敗した後で再インストールしようとする、新規プロファイルを作成できないためにインストールが失敗する可能性があります。</p>	<p>データベースをテスト環境用に作成した場合は、新規プロファイルを作成する前に、これらのデータベースを除去する必要があります。</p> <p>アンインストール時にこれらのデータベースが自動的に除去されない場合は、手動で除去する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• qesb プロファイルのデフォルト・データベースは ECMNDB および QECMNDB (一方または両方) です。</li> <li>• qbpmaps プロファイルのデフォルト・データベースは QBPMDB、QPDWDB、QCMNDB です。</li> <li>• qmwas プロファイルのデフォルト・データベースは MONITOR および COGNOSCS です。</li> <li>• qmbpmaps プロファイルのデフォルト・データベースは QBPMDB、QPDWDB、QCMNDB、MONITOR、COGNOSCS です。</li> <li>• qmesb プロファイルのデフォルト・データベースは ECMNDB、dateQECMNDB、MONITOR、COGNOSCS です。</li> </ul>







Printed in Japan